

# The Expert



平成27年2月10日発行

## ● 放射線科 水村 直 准教授 (平成元年・日本医科大学卒)

### 新7号館地下1階においてPET/CT、SPECT/CTの導入

地域連携関連施設の先生方には平素よりご高配を賜り御礼申し上げます。当院核医学は循環器核医学をはじめ、中枢神経、泌尿器、小児核医学などさまざまな領域に多くの検査が実施され、都内でも有数の核医学施設として認知されています。

このたび新7号館地下1階におきまして、新たにPET/CTを導入し核医学検査部門として2月23日より稼働を開始することとなりました。これまで腫瘍核医学検査は、ガリウムシンチ、骨シンチと一部の検査に限定されてきました。核医学部門としてがん診療連携拠点病院の一翼を担うべく、悪性腫瘍に対するFDG（フルオロデオキシ・グルコース）-PETを導入し、腫瘍核医学診断の拡充を図るものです。FDG-PETは、①鑑別診断、転移・再発診断、②病期診断、③原発巣診断などが注目されていましたが、近年、④治療効果判定の手法として注目されています。従来、治療効果判定には腫瘍の大きさの変化などが広く用いられていましたが、治療後の腫瘍は治療効果があっても瘢痕や肉芽組織の形成によって腫瘍縮小効果が判別困難となることがあります。これに対して、FDG-PETはがん細胞残存の有無を代謝状態によって判別します。FDG-PETを用いたがん治療の効果判定が優れていることが多くの学会で認められるようになってきました。このほか、区南部におけるはじめてのPET/CT導入となりますことからFDG-PETを用いたドックなども計画しております。

現在、FDG-PET検査は不明熱などの炎症性疾患やアルツハイマー型認知症の診断にも有用性が知られ、先進医療として一部国内施設でも実施されています。また、新しい検査薬として、アミノ酸代謝を利用した腫瘍PET検査、アルツハイマー型認知症の発症前診断、鑑別診断に有用とされるアミロイドPET検査も数年のうちに実用化が計画されています。PET検査は利用範囲がさらに拡大、将来性も高い検査法であると期待しています。

PET/CTが導入されるほかに検査室移設時には新たにSPECT/CT、3検出器型SPECT装置なども同時に更新、導入されます。SPECTとCTの融合画像や心臓・脳などに特化した高分解能画像の検査も可能となり、最新の装置を揃えてリニューアルいたします。PET検査と同様に、RI検査にもご注目頂きたく存じます。

これまでの核医学検査と同様に、地域医療支援センター（パートナー）をとおして、FDG-PET、RI検査のご依頼をお受け致します。広く地域の先生方にもご利用いただきたくお願い申し上げます。



SIEMENS社製PECT/CT Biograph mCT Flow

医療機関専用電話

パートナー

03-3762-6616 (直通)

(受付時間 平日 8:30~17:00、土曜 8:30~14:00)

(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)



東邦大学医療センター大森病院  
Toho University Omori Medical Center  
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1  
03-3762-4151 (代表)  
<http://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>  
発行元：地域医療支援センター